

<対策のポイント>

人手不足に対応しつつ、川上から川下までの特定の段階に負担が偏重しないよう、サプライチェーン全体で一貫した流通合理化対策を推進するため、RFID、ブロックチェーン、AI等を用いて、蓄積されたデータの共有・活用や省人化・省力化を実現するための食品流通プラットフォームの構築等を進めます。

<政策目標>

- 物流、商品管理、決済、輸出等のプラットフォームを実装〔令和2年度まで〕
- 各プラットフォームに蓄積されたデータを活用し、スマートフードチェーンシステムに連結〔令和4年度まで〕

事業の内容

事業イメージ

1. 農産物等物流業務効率化モデル形成

ICTで管理する出荷・搬入情報等を活用して生産者や流通事業者等が行う次の実証を支援します。

- ① トラックドライバーの乗船が不要な船舶輸送体制の構築
- ② 複数産地や異業種間の連携による積載率の向上等の取組を通じた効率的な共同輸送体制の確立
- ③ 従来の出荷規格の見直しを通じて簡素化した出荷規格による流通形態の確立
- ④ 最新鋭の冷蔵技術等を活用した新たな出荷体制の確立

2. 輸出拠点・流通新技術導入モデル形成

食品流通業者等による次の取組を支援します。

- ① RFID*、ブロックチェーン、AI等の先端技術を活用した、食品流通プラットフォームの構築等に必要となる調査・実証
- ② 食品流通プラットフォームの構築等に必要となる先端技術を用いた設備・物流機材のリース導入

※RFIDとは・・・電子タグに記憶された生産・流通履歴等の情報を、無線通信によって読み取ることで、移動追跡等を可能とする情報通信技術

